

■全学共通カリキュラムとの関連について

総合教養科目：人間の心や行動を理解するためには、進化の視点から動物の行動と比較することが非常に有用なので、比較心理学や比較認知科学の理解のために「こころの進化」の履修を推奨しています。また、論理的思考の習得と統計法の学習の準備のために、「人間と自然科学」領域の数学関連科目の履修を推奨します。 第一外国語：心理学の主要な研究論文の多くが英語で出版されているので、文献講読等の基礎能力として学習を勧めています。 第二外国語：特に言語を指示しませんので、自分の関心に従って履修してください。 情報処理科目：心理学専攻では、統計的なデータ解析や文献検索等でコンピュータを使用することが多いので、履修を勧めています。

《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

心理・コミュニケーション学科および心理学専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目（◎必修 ○選択必修△選択科目）
1 年次	心理・コミュニケーション学科で学ぶ分野について広く知る。	◎心理・コミュニケーション概論 ◎心理学概論 ◎コミュニケーション概論Ⅰ
	基礎心理学、社会心理学の領域について基礎的知識を習得する。	◎基礎心理学概論 ◎社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)
	心理学の実証研究に必要な統計的知識、データ整理および統計分析の基礎を学ぶ。	◎心理学統計法Ⅰ
	スタディ・スキルの基礎を身につける。	◎1年次演習(心理学)
2 年次	心理学の研究方法を初歩的な実験などを通して学ぶ。心理学において用いられる代表的なアセスメントの理論や基本的な技法について学ぶ。	◎心理学実験入門 ◎心理的アセスメントⅠ
	発達心理学、臨床心理学の領域について基礎的知識を習得する。	◎発達心理学概論 ◎臨床心理学概論
	心理学の実証研究に必要な統計、分析などの技能と知識を習得する。	◎心理学統計法Ⅱ
	観察、面接、実験、調査などを通して、心理学の基本的な研究方法を理解し習得する。知能検査や性格検査を体験的に学び、総合的な所見を作成する力を身につける。	◎心理学実験演習ⅠA・ⅠB ◎心理的アセスメントⅡ
3 年次	取り上げた心理学のテーマを深く理解するとともに、3年次演習で必要なスキルを身につける。	◎2年次演習(心理学)A・B
	【2・3・4年次共通】 心理学の各研究領域における専門的な知識を習得する。	○特殊講義の各科目
	4つの研究領域に分かれて、それぞれの心理学の発展的な内容について深く理解するとともに、卒業論文に向けて主体的に学習に取り組む力を養う。	◎3年次演習(心理学) 【3・4年次共通】 △心理学特殊演習(先端)・(心理学研究法) ○心理学実験演習Ⅱ(実験法)・(調査法)・(質的アプローチ) 【3・4年次共通】 △心理学実験演習Ⅲ(実験法)
4 年次	より発展的な研究技法を習得する。	◎心理学特殊実験演習
	卒業論文における研究に必要な専門的な知識や技能を習得する。	
4 年次	一人一人の関心に基づいて実証的な研究を進め、4年間の学習の集大成としての卒業論文を完成させる。卒業論文における研究を中心として、研究の発想、文献の検索・収集と精読、研究計画の立案と実施、データの定量的・統計的な分析と検定、質的データの分析結果の解釈、論文の執筆といった、さまざまな作業を学生自身が推し進める。	◎4年次演習(心理学)A・B ◎卒業論文

コミュニケーション専攻

《教育目標》

コミュニケーション専攻は、刻々と変化するメディア社会、情報社会、多文化社会で生きるために、主体的な学びを通して批判力、発想力を高め、再現性のあるデータに基づいて論理的に思考し、行動できる人物の育成を目的とする。

《カリキュラムの特色》

現代社会の様々な特性や問題を、コミュニケーションという切り口で学際的に幅広く体系的に学べるよう構成されています。具体的には次のような領域における学習ができます。

- SNSを含むメディアリテラシー
- メディアの影響
- 情報通信やインターネットのより良い利用
- ユーザー中心に現代の情報技術社会をデザインする方法
- 多文化共生社会のデザイン
- ダイバーシティを理解するための心理学
- ことばとコミュニケーション

演習・実習をコアに据えた、少人数で一人ひとりを大事にした密度の濃い指導を行います。客観的・実証的な視点から社会の諸問題に取り組むことができるように、研究法入門、データ分析法、研究法実習、社会調査法実習などの科目群を置き、調査法・実験法などの研究手法を用いて、体系的・論理的な思考力を養います。また、情報通信に関する技術を修得するためのアプリ作成入門、ICTリテラシーなどの科目群では、最新の装置や環境で実践的技術を学ぶことができます。卒業研究では毎年、学生たちが様々なテーマを見つけて興味深い研究をしています。

《履修法の助言》

■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。1年次では、学科入門科目の「心理・コミュニケーション概論」「心理学概論」「コミュニケーション概論Ⅰ」により、心理・コミュニケーション学科を構成する2分野（心理学・コミュニケーション学）について広く学び、人間の心のメカニズムや人と社会をつなぐコミュニケーションの問題についての理解を深めます。

専攻科目では、「コミュニケーション概論Ⅱ」の3科目により、コミュニケーションの3分野、メディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーションの基礎的知識を修得し、幅広く基礎的な知識を養います。《基盤演習》「1年次演習(コミュニケーション)」でコミュニケーション学への入り口として、文献を探して読み込み、批判的に考え、発表し、議論することを通して、学習の仕方のみならず自分の意見をまとめプレゼンテーションを行う力も養います。演習という授業形式に初めて参加し、高校までの学習スタイルから批判的で主体的・探索的な学習スタイルへ変わる訓練を行います。演習では、教員だけでなく受講生も主体的に授業の内容を構成してゆきます。学生同士の活発な議論と教員のきめこまかな指導により、自分のテーマに積極的・意欲的に取り組んでいくことを期待します。「先端トピック概論(コミュニケーション)A・B」は、現代的なトピックを扱い、各自の関心により各研究領域の専門性のある知識を得ることで、自らの研究テーマを考える第一歩とします。

2年次では、「コミュニケーション統計法1・2」「コミュニケーション研究法入門」（いずれも必修科目）で、実証的な研究方法の基礎を学びます。学際的なコミュニケーション研究分野においては、質問紙調査、実験、内容分析、質的研究、談話分析など多様な研究方法があります。実証的研究を重視する本専攻では、どのような領域の研究であれ、方法論的知識と能力を身につけることを目標としています。「コミュニケーション統計法1・2」「コミュニケーション研究法入門」の履修により、コミュニケーション学で用いる研究方法の概要をすべて学び、人間科学・社会科学の方法論を網羅的・体験的に理解します。「2年次演習（コミュニケーション）」では、英語文献を読む学習も大切です。テーマ別に各専門領域に分かれ、コミュニケーション研究について視野を広げる《基盤演習》として位置付けられます。同時に、2年次以上を対象とする《特殊講義》（コミュニケーション各論）による専門性の高い講義で幅広い知識を得て、自分のテーマを考えていくこととなります。2年次では、一つの専門領域にとどまることなくコミュニケーションに関する幅広い知識を習得することが望まれます。

3年次では、より専門的な卒業論文作成にむけて研究法を活用し、自らの研究テーマがみつけれられるような演習・授業が中心となっていきます。「3年次演習（コミュニケーション）I・II」では、自分のテーマを卒業研究プロジェクトに組み立てていくために、先人の問題意識や方法論を文献から学ぶことが中心になります。「コミュニケーション研究法実習」の各科目では、自己の研究テーマに沿った方法を4種類の研究方法から選択し、より実践的にデータを収集・分析・報告するスキルを修得して卒業研究の準備とします。

4年次では、3年間で学んだ諸知識を十分に反映させて「4年次演習（コミュニケーション）I・II」、「卒業論文」に取り組みます。3、4年次の演習は、自分の問題意識に意欲的に取り組んでいくことができる専門的な《発展演習》で、「卒業論文」につながるものです。4年次演習は、原則として3年次と同一担当者の演習を継続履修します。なお、演習によっては特定の授業科目の履修を指導する場合がありますので注意してください。

■全学共通カリキュラムとの関連について

総合教養科目：学科の教育内容と直接関連の深い「こころの科学」、「こころと社会」、「こどものこころ」、「現代の家族とジェンダー」、「社会学と現代社会」、「統計のしくみ」*、「統計分析を学ぶ」*等の科目の履修を推奨しています。（*総合教養科目の必修要件参照）
 第一外国語（英語）：多文化の学習・研究の基礎を作るものです。専攻で扱う多くの研究や資料は英語でしか入手できないことも多く、「2年次演習（コミュニケーション）」では英語の文献資料を講読して発表やディスカッションを行っています。
 第二外国語：特に言語を指示しませんが、多文化の学習・研究の基礎を作るものです。例えば、中国の新聞や韓国のメディアを扱う場合は、「中国語」や「韓国語」の学習が必要となります。
 情報処理科目：情報デザインの学習・研究と密接な関係にあります。必修の「情報処理技法（リテラシ）I・II」では、情報技術のベースライン作りが行われます。専攻の情報研究の内容と相補的に働き、より深く学習を進めることが可能となりますので、「コンピュータ・サイエンスI・II」「情報処理技法（Webでの情報表現）」等の選択科目の履修を推奨しています。なお、本専攻では「情報処理技法（リテラシ）I・II」の単位修得を4年次への進級条件としています。

《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。日本語教員養成課程の必修科目は、専攻の専門科目になっているため、課程が修得しやすくなっています。詳細については、日本語教員養成課程事務室にてお問い合わせ下さい。

心理・コミュニケーション学科およびコミュニケーション専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目（◎必修科目 ○選択必修科目）
1年次	心理・コミュニケーション学科で学んでゆく色々な分野について広く知る。	◎心理・コミュニケーション概論 ◎心理学概論 ◎コミュニケーション概論 I
	スタディ・スキルの基礎を身につける。	◎1年次演習（コミュニケーション）
	コミュニケーションの3領域に関する基本的な考え方を身につける。	◎コミュニケーション概論 II（メディア）・（情報デザイン）・（多文化）
	コミュニケーションの3領域に関する研究の先端的内容について知る。	○先端トピック概論（コミュニケーション）A・B
	実習を通して論理的な思考を身につける。	○アプリ作成入門
2年次	研究法の基本を身につける。	◎コミュニケーション統計法1・2 ◎コミュニケーション研究法入門
	英語文献を読むことにより、コミュニケーション研究について視野を広げる。	◎2年次演習（コミュニケーション）
	【2・3・4年次共通】 コミュニケーションの研究分野に関連するスキルを学ぶ。 専門知識を得つつ、専門内の視野を広げる。	○特殊講義 （コミュニケーション各論の各科目）
3年次	コミュニケーション研究法を深め、活用できるレベルにする。	○コミュニケーション研究法実習・社会調査法実習・多変量解析の各科目
	自分の研究テーマをみつけていく。	◎3年次演習（コミュニケーション）I・II
	【2・3・4年次共通】 コミュニケーションのそれぞれの領域の専門的な内容について理解をすすめる。	○特殊講義 （コミュニケーション各論の各科目）
4年次	これまでの学習を有機的に結合し、研究プロジェクトという形で自らがテーマとする問題に取り組み、実証的データの裏付けをもって論理的に学んだ成果を表現することができるようにする。	◎4年次演習（コミュニケーション）I・II ◎卒業論文